平成29年度版

京（みやこ）の生きもの発見ガイド

P1～ 哲学（てつがく）の道周辺（しゅうへん）の生きもの

P7～ 京都の田んぼの生きもの

京都市
CITY OF KYOTO

哲学の道周辺の

ナギの木

ゲンジボタル案内板

いろんなセミの鳴き声が
聞こえてくるよ

5

4 春から夏には
道端の野草にも
目を向けよう

哲学の道

琵琶湖疏水（疏水分線）

鹿ヶ谷かぼちゃ

1 琵琶湖の水が
取り入れられているよ

2 群れている魚たちや
大きな貝が見られるかな

3 水辺の鳥たちも
見られるよ

大豊神社

こまねずみ

安楽寺

熊野若王子
神社

北

生きもの観察マップ

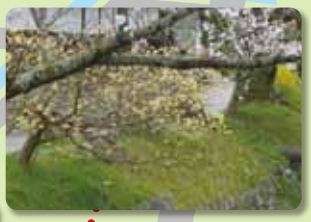
観察ポイント

今出川通

白川通

白川

ミツマタの木



哲学の道道標

6 季節を通してサクラの木で
いろんな生きものを発見

鹿ヶ谷通

9 ミツマタの木をよく
観察してみよう

7 梢をわたる
野鳥も多いよ

8 サクラの種類も
観察してみよう

参道

サクラと東山の峰

法然院

哲学の道

里の生きものたちに出合える小道

銀閣寺の参道に向かう橋のたもとに「哲学の道」と刻まれた石の道標があります。「哲学の道」はここから若王子橋までの約1.5キロの小道で，かつて文人や学者が好んで散策したのでこの名前がついたともいわれています。

東山山麓の森に近く，琵琶湖疏水（疏水分線）の流れに沿って続いており，多くの生きものたちと出合うことができます。

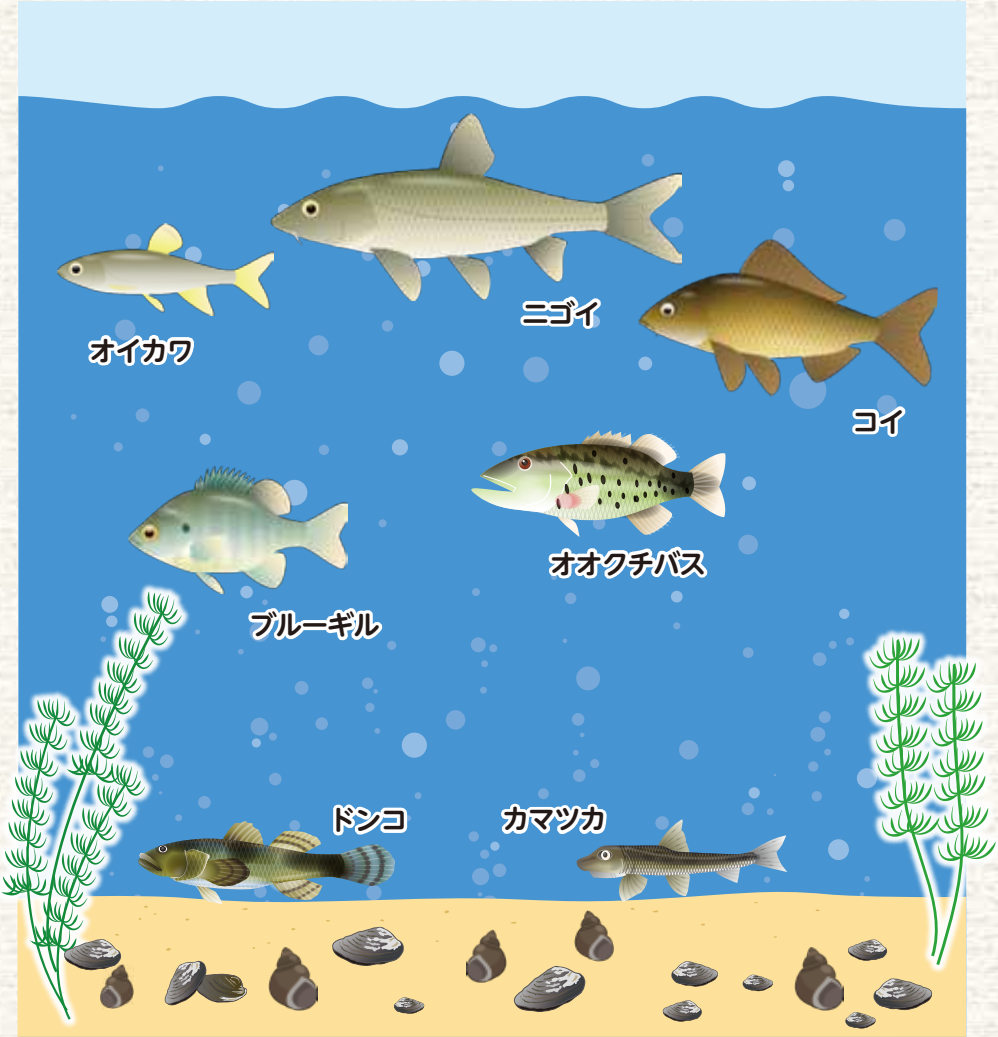
ゲンジボタルの一生

哲学の道では，6月頃，ゲンジボタルの飛翔を見ることができます。疏水のゲンジボタルとその生息地は，京都市登録天然記念物となっています。

成虫の体長は 15mm 前後で，体は黒色。前胸背面の左右がピンク色で，中央に十字状の黒い模様があります。オスよりもメスが大きく，夏になると幼虫がふ化し，水中で暮らします。カワニナなど巻貝を捕食し成長し，翌年の春に上陸し土中でさなぎとなり，羽化して成虫となります。

疏水で見られる魚たち

琵琶湖とつながる流れには，どんな生きものが見つかるでしょうか。水面近くには，オイカワ，ニゴイ，コイなどが目に入ります。さらに，目を凝らすと，底の方に，カマツカやドンコなどを見つけることもできます。また，外来魚である，オオクチバスやブルーギルもよく見られる魚です。魚以外では，カワニナやマツカサガイなどの淡水貝が生息し，そして，水草が繁茂している場所もあります。



道沿いで見られる昆虫たち

木々や草の茂みには，いろいろな昆虫を見つけることができます。特にチョウは道沿いに咲く花々を訪れます。小型のシジミチョウの仲間から，大型のアゲハチョウの仲間までと顔ぶれも多彩です。食草となっている植物も探してみましょう。その他，トンボ，セミ，バッタ，甲虫の仲間などにも出合うことができるでしょう。

ツマグロヒョウモン【タテハチョウ科】

［4月～11月］

南方系のチョウで，オスは後ろばねがヒョウ柄でへりが黒く，メスは前ばねの端が黒色で白い帯がよく目立ちます。食草はスミレ類で，庭先にも訪れます。

タマムシ【タマムシ科】

［6月～9月］

全体に金緑色ですが，腹部は金赤色です。成虫は樹木の梢近くを飛び，幼虫はエノキやケヤキ，サクラなどの弱った木や枯れ木の材部を食べます。

ナガサキアゲハ【アゲハチョウ科】

［4月～10月］

クロアゲハなどに似ていますが，尾状突起（後ろばねの突き出た部分）がないので区別できます。また，はねのつけ根に赤い斑点があります。南方系のチョウで温暖化の指標生物とされています。

身近な野鳥にも目を向けよう

四季を通して野鳥を間近に見ることができます。1年を通して見られる留鳥や，渡り鳥である夏鳥，冬鳥などと出合えます。疏水があることで水辺の鳥も餌を求めてやってきます。野鳥の鳴き声や餌となる植物の種子なども観察してみてください。

ジョウビタキ 冬鳥【ヒタキ科】

オスは胸から腹が橙色，頭は銀色に見えます。つばさの白い斑点が目立ち，秋に北方から飛来します。やや開けた環境を好み，「ヒッヒッ」ときに「カッカッ」と鳴きます。

カルガモ 留鳥【カモ科】

オス・メス同色で，くちばしの先端が黄色く，足は橙色。水辺の草地などに巣をつくります。「グエッグェ」と大きな声で鳴き，主な餌は植物質のものです。

アオサギ 留鳥【サギ科】

大型のサギです。水辺に生息し魚類や両生類などを捕食します。オス・メス同色で，体の上面は青みがかった灰色の羽毛でおおわれ，後頭の冠羽や胸や背の飾り羽が目立ちます。

法然院の森

お寺の森は生きものたちのサンクチュアリー

お寺の森は大文字山へと続いています。ふもとの森にはツブラジイが多く，サカキやヤブツバキなども見られます。谷筋から尾根にかけてはコナラやシデ，アカマツなどの木々も見られます。森には菌類も豊富です。そんな森は生きものたちのサンクチュアリー（聖域）のようで，哺乳類，鳥類，ハ虫類，両生類などのすみかとなり，森の生態系が保たれ，生きものの多様性が守られています。

オオルリ　夏鳥【ヒタキ科】

4月下旬頃に南方から飛来します。オスの背は青色で白い腹とのコントラストが美しく，メスの背は地味な茶色です。オスは高い梢で澄んだ声でさえずります。

ムササビ　【リス科】

哺乳動物で，夜行性。飛膜を持ち，樹間を滑空して移動することができます。主に木の芽や葉，実を食べ，巣は樹洞などにつくります。

ニホンリス　【リス科】

山地の森林などに生息しています。樹上性で，主に朝夕に活動し，木の芽や実を食べます。マツの種子は好物です。巣は樹上の枝の間などにつくります。

キヌガサタケ　【スッポンタケ科】

主に梅雨時に竹林に発生します。レース細工のような白いマントが特徴です。カサは黒く，放たれるにおいに誘われて昆虫が訪れ，胞子を運びます。

マントカラカサタケ【ハラタケ科】

きのこは森のメンバー。このきのこも夏から秋に雑木林などに出ます。大型になるきのこで，長い柄に白色のマント状のつばを持ちます。

モリアオガエル【アオガエル科】

森にすむカエルで，6月頃の繁殖期には生息地付近の池などに集まります。産卵時には水辺の木の枝や草などに白い泡の卵塊をつけます。

京都の田んぼで観察できる生きものについて

野鳥は季節によって見られる時期を色分けしてあります

留鳥　餌を求めて移動することはありますが，1年を通して見られる鳥

漂鳥　北部や山間部で子育てをし，冬越しに暖地に移動する鳥

旅鳥　北方で子育てをし，南方で冬越しをする途中に日本に立ち寄る鳥

夏鳥　春に子育てのために日本に渡ってきて，秋に冬越しのために南の地域に渡っていく鳥

冬鳥　日本より北の地域で子育てをし，冬越しをするために日本に渡ってくる鳥

1 春から夏の田んぼの野鳥

春の田んぼではさえずりがとてもにぎやかになり，野鳥の子育てが始まります。田んぼに水が入ると水辺の生きものも活発になり，稲の成長と共にサギやカモなど様々な鳥たちもやってきます。

ヒバリ　【ヒバリ科】

「チュリチュリリピチュリ・・・」と空中にまいあがり早口でさえずります。草の種や昆虫などをついばみ,名は「日晴る」からきたともいわれます。

ケリ　【チドリ科】

「ケリケリケリ」と鳴くのでケリとなりました。耕す前の草地に巣を作り,主に昆虫類を食べています。天敵がヒナに近づくと傷ついたふりをし，注意を引きつけます。

バン　【クイナ科】

「クルルル」と高い声で鳴きます。田の番をするという意味でバンになりました。小さな生きものや水草などを食べます。赤いくちばしの先は黄色です。

ホオジロ　【ホオジロ科】

「チョッピイチチュチュリチュリチュー」と早口でさえずります。昆虫や草の種などを歩きながらついばみます。ほおが白いので「ほお白」です。

コチドリ 【チドリ科】

目のまわりの黄色がくっきりしています。ジグザグにせわしく動き回ってえさを探します。浅い水辺で片足をふるわせて水生昆虫の幼虫を追い出してとることもあります。

オオヨシキリ 【ウグイス科】

ヨシなどを切り裂いて中にいる虫をついばむ鳥で,コヨシキリより大きいのでオオヨシキリです。「ギョギョシ ギョギョシ」とオスがさわがしくさえずります。

アマサギ 【サギ科】

頭から首，胸は橙色でコサギより小さいサギです。昆虫類を好んで食べ，ドジョウやエビなどもついばみます。くちばしは橙 色からしだいに赤っぽくなります。

チュウサギ 【サギ科】

小魚や昆虫類を好んで食べます。カエルやエビなどもついばみます。コサギよりひと回り大きなサギです。夏は黒いくちばしですが，足の指も黒いのがコサギとのちがいです。

ツバメ 【ツバメ科】

巣材を集めるときだけ地面に降ります。田んぼの土は柔らかいので，枯れ草とだ液を混ぜて，わん型の巣を作ります。飛んでいる昆虫類を捕らえ,水も飛びながら飲みます。

キアシシギ 【シギ科】

長く黄色い足はよく目立ちます。水生昆虫の幼虫やエビなどを歩きながらついばみます。南方から北方へ子育てに向かう途中に田んぼや干潟などに立ち寄って行きます。

❷ 春から夏の田んぼの生きもの

田んぼのあちらこちらからカエルの声がひびいてきます。カエルは生まれたところに戻ってきて卵を産む習性があります。オスが高らかに鳴いてメスを呼びます。鳴き声には種類によってちがいがあります。

アマガエル 【アマガエル科】

オスが「クワッ,クワッ,クワッ」と雨が降る前に大きくのどをふくらませてよく鳴きます。目の前後に黒い模様があり,周りの色によって体の色も変わります。

シュレーゲルアオガエル 【アオガエル科】

ひとみの周りが黄色いのが特徴です。オスは,「コロロ,コロロ」と鳴きます。土の中に泡だまをつくり,その中に卵を産みます。褐色の個体もいます。

トノサマガエル 【アカガエル科】

ふだんは緑色ですが,繁殖期のオスは金色になります。メスは灰褐色です。オスは,「グルルル,グルル,ゲゲゲ」と鳴きます。スラリと長い足が特徴です。

ツチガエル 【アカガエル科】

背にはイボのような突起があり,イボガエルともいわれています。つかまえるといやなにおいを出します。オタマジャクシで冬越しをするものもいます。

コオイムシ 【コオイムシ科】

メスがオスの背に卵を産みつけるので「子負虫」です。尾の先に出し入れができる呼吸管があり,巻き貝などを食べます。

アメンボ 【アメンボ科】

捕らえると飴のようなにおいを出すので,この名がつきました。脚には細かい毛が生えているので水面に浮くことができます。

マメゲンゴロウ 【ゲンゴロウ科】

７mmくらいで小さいので「マメ」の名がつきました。頭と胸は黒色で,背は褐色です。主にアカムシを食べています。

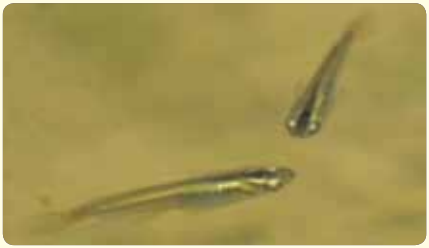
イチモンジセセリ 【セセリチョウ科】

幼虫やさなぎはイネの葉を巻いた中にいます。幼虫は稲の葉を食べます。成虫が止まるときは,はねを半分閉じています。

スジエビ 【テナガエビ科】

透きとおった体に黒いしまがあります。脚が長く素早く動きます。２対あるハサミのような手で水生昆虫などを捕らえます。

メダカ 【メダカ科】



４cmほどの小さい魚。群れで生活し,流れの方向に頭を向け，水面近くを泳ぎます。絶滅が心配されるようになりました。

③ 夏から秋の田んぼの生きもの

トンボは，「田んぼ」という言葉からきたともいわれています。トンボ類は稲作文化と共に栄えてきました。ため池や水路，水田と稲刈りが終わった後の環境に適応する多様な種類のトンボが生息しています。

アキアカネ 【トンボ科】

夏の暑い時期を高い山で過ごし,秋になると生まれた場所に戻ってきて産卵します。卵は休眠して冬を過ごし,翌年の春に田んぼに水が入るといっせいにふ化します。

ナツアカネ 【トンボ科】

腹や胸,頭とすべてが赤いのが特徴です。夏の暑い時期は田んぼから姿を消し,周辺の雑木林や森などで過ごし,秋になると稲刈り前の田んぼに戻り,メスが産卵します。

マユタテアカネ 【トンボ科】

オス・メス共に顔の額部分に黒い模様があり,これが「お公家様」のつけ眉に似ることから「眉立て」という名がつきました。夏の間近くの雑木林などで過ごし秋に水辺で産卵します。オスの腹部は赤くなります。

ミヤマアカネ 【トンボ科】

はねの先から少し内側に褐色の太い帯があります。幼虫の成長には小川などのゆるやかな流水が必要で，他の赤トンボと異なります。乾田化などが影響し，京都府は準絶滅危惧種に分類しています。

エンマコオロギ 【コオロギ科】

コオロギの中では最大です。目の上の帯模様がエンマの顔に似ています。田んぼでは稲刈り後に見る機会が増えます。植物や昆虫などを食べます。

ケラ 【ケラ科】

田んぼのあぜなどの湿った土の中のトンネルで暮らしています。「オケラ」とも呼ばれています。植物や昆虫，ミミズなどを食べます。成虫にははねがあります。

ホシササキリ 【キリギリス科】

稲の茎を食べるので稲の害虫ですが，稲の害虫のニカメイガの卵を食べる役割もしています。

コバネイナゴ 【イナゴ科】

はねが短いイナゴなので「小ばね」です。オスよりメスの方が大きく，稲の害虫とされ，食用にもされてきました。

クビキリギス 【キリギリス科】

体色は褐色と緑色の型があり，口の周りが赤いのが特徴です。他のバッタ類や小さな昆虫類を捕らえて食べ，成虫で冬を越します。

ナガコガネグモ 【コガネグモ科】

田んぼに多いクモです。草むらに円い網を張り昆虫を捕らえる大きなクモです。腹の黒いしま模様が特徴です。

④ 秋から冬の田んぼの野鳥

稲刈りが終わり，見晴らしがよくなると，セグロセキレイやハクセキレイ，タヒバリなどのセキレイの仲間が目立つようになります。田んぼに潜む生きものを求めてモズなども縄張りを持つようになります。寒さが厳しい冬になると，落ち穂や草の種を求めてアトリやカワラヒワなどの群れが増えてきます。オオタカやハイタカ，ノスリなどのタカの仲間やチョウゲンボウなどのハヤブサの仲間も姿を現すようになります。ネズミなどを求めるチュウヒ（タカ科）やコミミズク（フクロウ科）などは著しく減少し，京都府レッドデータブック 2015 では絶滅危惧種に分類されています。

トビ　【タカ科】

「ピーヒョロロロ」と鳴き,地面にもよく降りてきます。飛んだときつばさの先の方に白い模様が見えるのが特徴です。

チョウゲンボウ　【ハヤブサ科】

ヒラヒラしたはばたきでネズミや昆虫などを探します。オスの頭は青灰色です。顔にはヒゲ状の黒い模様があります。

キジバト　【ハト科】

「デデポオポオポー」とさえずり,様々な草の種や樹木の実などをついばみます。ほとんどつがいでいます。

ハクセキレイ　【セキレイ科】

尾を上下に振りながら歩き,顔や腹側が白いので「白セキレイ」です。水生昆虫や昆虫類をついばみます。

タヒバリ 【セキレイ科】

冬枯れの田畑に多いので「田ひばり」という名です。昆虫類や草の種などを尾を上下に振りながらついばみます。

モズ 【モズ科】

鳥の鳴きまねがうまく,くちばしはかぎ型に曲がっています。えものを枝やとげなどにつきさしておく習性があります。それを「はやにえ」といいます。

アトリ 【アトリ科】

群れあつまる鳥から,「あとり」となりました。落ち穂や草の種をついばみに数百羽が集まってくることもあります。「キョッキョッ」と鳴きます。

ツグミ 【ツグミ科】

数歩歩いては立ち止まり胸をはります。「キュキュキュ」と鳴き,目の上の白い線がくっきりしています。つばさは茶褐色です。ミミズや昆虫の幼虫，木の実などを食べます。

カワラヒワ 【アトリ科】

つばさに黄色い模様があり,太くて短いくちばしが特徴です。群れて樹木の実や草の種をついばみます。「ヒリヒリ」と鳴きます。

ムクドリ 【ムクドリ科】

「キュルキュル」と鳴く額と顔が白い鳥。くちばしと足が黄色く,全体が灰褐色で群れています。草木の実や昆虫を食べます。

京の生きもの発見ガイドの使い方・楽しみ方

京都市内には豊かな自然があり，たくさんの生きものが共存しています。
このガイドブックを持って，様々な生きものを探しに出かけてみてください。

野外観察での注意点

池や川など危険な場所へは子どもたちだけで行かないようにしてください。
安全な野外活動を心がけ，生きものの観察を楽しみましょう。

環境管理課のホームページでは過去の京の生きもの発見ガイドや，生物多様性についての資料を掲載しています。
市内で見られる生きものをどんどん探しに行きましょう！

京都市　生きもの発見ガイド　検索

平成28年度版
京の生きもの発見ガイド

宝が池公園周辺に生息する多様な生きものや，市内で身近に見られる生きものについて紹介しています。

平成27年度版
京の生きもの発見ガイド

桂川に生息するカヤネズミや，市内で見られる多種多様な生きものの生態を紹介しています。

京都市では，**生物多様性保全**の取組を進めています！

詳しくは，**京都市生物多様性プラン ～生きもの・文化豊かな京都を未来へ～**をご覧ください。

→わたしたちの生活は，**生物多様性の恵み**に支えられていることを御存知ですか？
→**生物多様性の恵み**である京都市の資源を活用した生活や経済活動を行いましょう！

DO YOU KYOTO? 京都にいいことしていますか？

京都市♥地域コミュニティ活性化

この印刷物が不要になれば「**雑がみ**」として古紙回収等へ！

制作協力／西台律子,久山喜久雄（五十音順,敬称略）
発行:京都市環境政策局 環境企画部 環境管理課
平成30年3月発行　京都市印刷物第293237号